

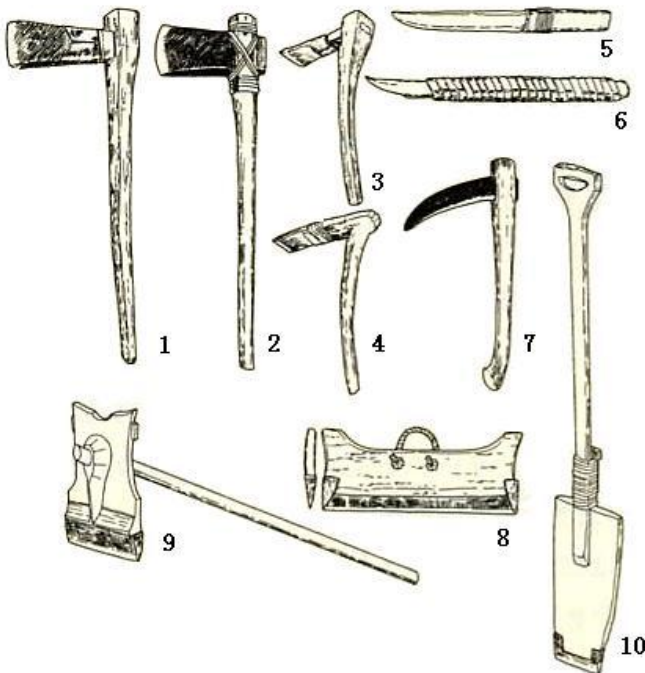


『 弥生時代の鉄の道具 』

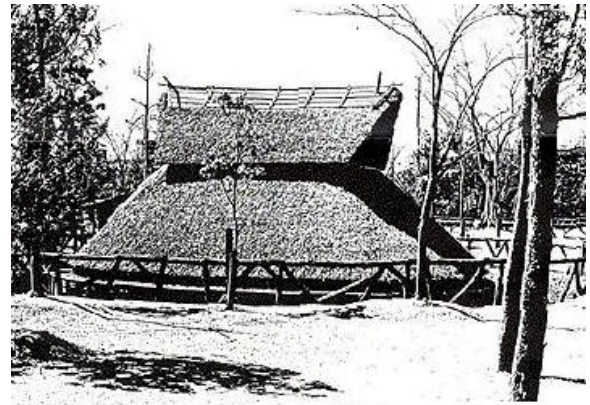
静岡県にある登呂遺跡は弥生時代後半の水田を持った遺跡です。台風か洪水のため、安倍川が氾濫、水没し埋まってしまったものと考えられています。12軒の家、2棟の倉庫、井戸、森林の跡などが見つかったほか、南側には水田の広がりが見つかりました。この水田は6万平米もの広さがありました。精巧に作られた水田は木製の矢板で仕切られていますが、鉄器を使って加工された木製品が多数出土しています。椀・皿・臼、鋏・鋤・田下駄・田舟・杭・柱など、これらを加工した鉄はどのようにして登呂まで運ばれたのでしょうか。又、製品はどんな鍛冶屋がどこで作ったのでしょうか。

鉄の使用・発達を考える時、①鉄製品を持ち込む→②鉄素材を持ち込み、加工する→③鉄を生産し、製品も作る、こんな順序になります。わが国では現在のところ古墳時代になってから鉄の生産が始まったとされています。誰が、どんな方法で、どこから鉄を運び入れ道具を作ったのでしょうか。非常に不思議に思います。

弥生時代における鉄の刃を持つ道具



1. 2 斧 (伐採用) 3. 4 手斧 (加工用)
 5 刀子 (とうす: ナイフ) 6 (やりがんな)
 7 鎌 8 摘鎌 9 鋏 10 鋤



復元された竪穴住居

静岡市立登呂博物館

<http://www.city.shizuoka.shizuoka.jp/deps/kyouiku/torohaku/>

博物館には体験コーナーがあります。「杉の木をけずってみよう」「田下駄をはいてみよう」等、いろいろな生活場面があり、体験を通して実感できます。ぜひ貴方も一度体感してみてください。

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！

参考資料

倭人と鉄の考古学 村上恭通 青木書店 1999年

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>

<http://www.kanamonoya.co.jp/>

ryou@memenet.or.jp

今年も宜しくお願ひします。あなたのご感想をお送りください。